

北海道アイヌ政策推進方策 概要

第1 策定の経緯等

現行の生活向上推進方策が令和2年度(2020年度)で終了するほか、令和元年5月にアイヌ施策推進法が施行されたことなどから、法の趣旨や平成29年に実施した北海道アイヌ生活実態調査の結果、新たなアイヌの人たちの総合的な推進方策検討会議での意見等も踏まえ、これまでの生活向上やアイヌ文化振興に加え、地域振興、観光振興等を含めたアイヌ政策を総合的に推進するため、令和3年度(2021年度)以後の推進方策を策定。

第2 背景・歴史・現状

これまでの歴史や和人との関わり、アイヌ政策の変遷、アイヌ生活実態調査やウポポイの開業など近年の状況などを記載。

第3 基本的な考え方

- 1 名称 「北海道アイヌ政策推進方策」とする。
- 2 期間 令和3年度(2021年度)から令和7年度(2025年度)までの5年間
- 3 目指す姿

未来志向によるアイヌ政策を総合的に推進し、アイヌの人たちが民族としての誇りを持って生活することができ、その誇りが尊重される共生社会の実現

- 4 展開方向

「理解の促進」、「生活の向上」、「文化の振興」、「地域、産業及び観光の振興」、「多様な文化との交流促進」の5つの施策を柱として、アイヌ施策に取り組む。

第4 推進施策

- 1 理解の促進

<現状・課題>

アイヌの歴史や文化等について、十分な理解が得られていないため、現在もいわれのない偏見や差別が残っている。

<施策>

- (1) 正しい理解に向けた教育の充実
- (2) 道内外への普及啓発

- 2 生活の向上

<現状・課題>

アイヌの人たちの生活状況は改善傾向にあるが、依然として格差がみられ、アイヌの人たちへの教育の充実や生活・雇用の安定が求められている。

<施策>

- (1) アイヌの人たちの教育の充実
- (2) 雇用の安定
- (3) 生活の安定・向上と生活環境の改善

3 文化の振興

<現状・課題>

アイヌ文化は口承文化であったため記録や資料が少なく、アイヌ語で自由に会話できる人はごく僅かとなっているなど、アイヌ文化を保存し、次世代へ継承していく担い手が不足している。

<施策>

- (1) アイヌ文化の保存・伝承
- (2) アイヌ文化の魅力発信
- (3) アイヌ文化振興の基盤づくり

4 地域、産業及び観光の振興

<現状・課題>

伝統的技術を有する工芸家の高齢化などにより、後継者が不足している。

農林漁業や商工業は、小規模な経営者が多く、経営の安定化を図ることが重要である。

ウポポイの開業を契機に、国内外からより多くの方々に訪れていただき、開業効果を道内各地に波及させ、観光振興や地域活性化につなげていくことが求められている。

<施策>

- (1) アイヌ伝統工芸等の振興
- (2) アイヌ文化を核とした地域や観光の振興
- (3) 産業の振興

5 多様な文化との交流促進

<現状・課題>

グローバル化の流れが進展し、世界と本道の距離は急速に縮まりつつある中、アイヌの人たち自身が多様な文化や生活習慣などに触れ理解を深め、文化や生活習慣の違いなどについての相互理解が必要である。

<施策>

国際交流等の促進

第5 推進に当たって

アイヌ施策を効果的に推進していくためには、アイヌの人たちが伝承してきた独自の文化などを積極的に活用するとともに、関係機関の連携等が必要である。

- (1) ウポポイや地域資源の活用
- (2) 関係機関との連携・協力強化
- (3) 組織活動の充実
- (4) 総合計画等との整合性